令和８年第１０回大川市教育委員会（定例会）会議録

令和８年６月２９日、大川市役所大会議室において、令和８年第１０回教育委員会（定例会）を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

１．開会及び閉会に関する事項

開会　　１４時００分
閉会　　１６時００分

２．出席委員

教 育 長	横大路　智毅
教育長職務代理者	谷川　朋昭
委　　員	今村　秀一
委　　員	木下　明子
委　　員	大内田　友美

３．欠席委員

なし

４．事務局等の出席者

学校教育課長	緒方　範子
学校教育課主幹指導主事	石橋　佳明
生涯学習課長	永島　潤一
学校教育課課長補佐	中村　大輔
指導主事	下川　勝彦
指導主事	古賀　孝志
学校教育課学務係長	坂本　さとみ
生涯学習課課長補佐	龍　　直弘
生涯学習課参事	岡　美詠子
社会教育主事	松延　　聡
生涯学習課文化・社会・人権・同和教育係長	道井　真広
記録者・学校教育課総務係	相浦　一也

５．傍聴者

なし

６．付議案件

審議事項

（１）議案第３０号　臨時代理の承認について（「令和８年度大川市一般会計補正予算（第１号）」に対する意見について）
（２）議案第３１号　臨時代理の承認について（「工事請負契約の一部変更について」に対する意見について）
（３）議案第３２号　臨時代理の承認について（「令和８年度大川市一般会計補正予算（第２号）」に対する意見について）
（４）議案第３３号　大川市学校給食運営委員会委員の委嘱について

（５）議案第３４号　大川市社会教育委員の委嘱について
（６）議案第３５号　大川市地域学校協働活動推進員の委嘱について
（７）議案第３６号　教育委員会の点検・評価について
報告事項
（１）講師等の任用について

７．教育長挨拶の要旨

（１）　大雨対応について

大雨が続いたが、登校をどうするか、学校行事をどうするかを、他市町教育委員会とも情報共有しながら、また、市の関係各課の動きを見ながら判断した。結果は安全に通常登校するとしながらも、遅れても遅刻として扱わないという、そういう形で対応をおこなった。

（２）　６月市議会定例会について

６月２６日に６月市議会定例会が終了した。今回の一般質問では、教育関係の質問が多かったが、自身の所信表明も含めて答弁させていただいた。質問の中で心に残ることが三点あり、一つは少子化の問題を聞かれ、以前、複式学級が発生した時に再編を検討するという答申があったことから、それについては検討を始める旨を回答した。ただ、結論ありきではなく、子供たちの教育環境をどうするのかをまず大事にしたいということで答弁を行った。

次に二つ目に不登校の数について聞かれたが、不登校の数はこの十年間で、増加はしているが、現在、その不登校というのものの多様化というところが指摘されている。そのような不登校の子供たちの状況の多様化に対して、一人一人に応じてのアセスメントを重視している。一人一人の個別性に着目して、その背景要因に目を向ける、見立てをするという、そして個々に合った関わりを考えていこうという方針である。文部科学省でも不登校に対しては、もう不登校というだけで問題行動とは見なさないようにという対応、指導方針も打ち出されており、決して学校の存在意義を蔑ろにするということではなく、勿論学校復帰を目指してはいるが、学校復帰に拘らず、フリースクールなどで、多様な学びを保障していこう、将来の自立ということを目指している。ただし、不登校の子を持つご家庭、保護者の気持ちには、声を聞きながら、しっかりケアしていかなければならないなというふうに思っている。

三つ目として、市民の方の意識調査の中で、将来も大川市に住みたいという回答が目標設定よりも高く、それに対して学校でおこなっているふるさと教育の成果ではと言われ、そうだなと思った。今、学校で一生懸命ふるさと学習や木育など実施しており、その成果が、その時はわからなくても、後になってやはり大川が良い、大川に住みたいという、そういう市民を育成してる、そういう成果を生んでるのかなと思っており、教員たちは胸を張っていただけきたい思っている。

８．議事の大要

審議事項	**（１）　議案第３０号　臨時代理の承認について（「令和８年度大川市一般会計補正予算（第１号）」に対する意見について）**
質問・意見等なし	
≪採決≫　全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	**（２）　議案第３１号　臨時代理の承認について（「工事請負契約の一部変更について」に対する意見について）**

委　員	これまで、予算や工期について、何回か予算の増額や工期の延長があっており、今回もそのような議案の内容であるが、今後の工事の過程の中で、また予算増額や工期延長ということは考えられるか。
事務局	可能性はゼロではないと思う。何事もなければ３月で終わらせなければならないと思っているが、今年は台風が多いという予測があり、日本に上陸する数も多いのではないかと思われる。九州、特にこの辺に上陸した時の影響は心配している。それがなければ大丈夫だと思う。
委　員	直接の工事内容に関して、解体中、解体後で見えてなかった部分が見えてきて、現在まで追加工事があったところでいくと、もうどこかズレがあるとか、そのようなことでの追加工事が出てくる可能性はもう極めて低いということか。
事務局	委員ご案内のとおりで、もうあらかた一旦解体したような形になっており、その状況で家屋の柱の歪みや基礎石からズレなどはほぼ今の段階で解消されている。現状、荒壁塗りまで進んでおり、あとはもう順調に工事が進むことを願ってるところである。
≪採決≫　全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	**（３）　議案第３２号　臨時代理の承認について（「令和８年度大川市一般会計補正予算（第２号）」に対する意見について）**
質問・意見等なし	
≪採決≫　全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	**（４）議案第３３号　大川市学校給食運営委員会委員の委嘱について**
質問・意見等なし	
≪採決≫　全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	**（５）議案第３４号　大川市社会教育委員の委嘱について**
質問・意見等なし	
≪採決≫　全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	**（６）議案第３５号　大川市地域学校協働活動推進員の委嘱について**
質問・意見等なし	

≪採決≫　全員挙手により原案のとおり承認	
審議事項	**（6）議案第３６号　教育委員会の点検・評価について**
委　員	２３ページの「自分には良いことがある」という小・中学校の結果で、地方の子たちは自分でしっかり前に出ることを少し躊躇するという意見があったが、先生方は本当に色々な取り組みを色々な角度からされている。学校訪問の際も、先生たちの色々な取り組みを見てて、本当に素晴らしいなといつも思っているが、今年度、これから先の新たな取り組みがあるか。
事務局	中学校については揺れ幅があり、この調査は中学３年生対象であるが、やはりその時の学校の中の落ち着き具合というのが少なくとも影響するのが分かった。
事務局	地方だからっていうのは一概に言えないところがあるかもしれない。恐らく都会と地方で比較するような調査というのは全体的には行われておらず、地方の方でも自尊感情が高いところも中にはあると思う。なぜ高いのかというのを、今後、我々も学んでいかなくてはいけないところがあるが、よく言われるのは、自分がこう認められているとか、自分が何か課題を成し遂げたとか、要するに色々な人から自分が成長しているとか、良いよというふうに評価してもらうというような機会をもっと増やさないといけないのかなと思っている。ということは、やはり学校も、小学校の段階では、学校の中で、色々な活動において最終的に成功に終わるという活動を学校がどのように仕組んでいくのかというところが一つ鍵になるのかと思っている。勿論、これは学校の中だけではなくて、地域や色々なところで自分が認められているという機会をどれだけ増やしていくのか、それをどう仕組んでいくのかというところも鍵となると思う。
事務局	自分が大川の学校に赴任した時、大川小学校、木室小学校が県の鍛ほめ福岡メソッドの取り組みをしていたが、その時は軌道に乗っていた時で、自尊感情がかなり高く、それとともに学力もかなり上がっていた。要は自分たちで実現可能な目標設定をして、先程話に出た認める場に加えて、しっかりと基礎学力などの指導をしていた。そのようなことで、成果があったのではないかと思う。また、その時に自尊感情と自己有用感をセットでしていたので、自分たちが何か役に立っているという、そういう場の設定というのが大事になるのかなというふうに思っている。 また、現在、生涯学習課でジュニアリーダーの子供たちと関わっているが、学校に若干居場所がない子供たちが非常に輝く場になると思うので、少人数ではあるが、そういう場を別のところで作ることができているのかと思っている。
教育長	この自己有用感については、何か特別なことができないと駄目なのか、例えば大リーグに行って成功するとか、何かこうしないとダメなのかなと思ってるかもしれないが、何か特別な成功体験から生まれるものではなくて、むしろ何かができたとか前より少し良くなったといった小さな実感の積み重ねが大事なのかなと思う。何かを教えこむものではないし、結局日常の中で気づかせ支える、それによって少しずつ変わっていったら、本当に大きく変わることではないかもしれな

	いが、粘り強く気づかせ支えてていくことが大事かと思う。 　よくいいとこ探しということで、実際いいとこ探しをしましょうと言うが、それも限界があって、いいとこ探しでいつも名前が挙がる子と挙がらない子とがいたりする。そうではなく、教師の立場としては、いいとこがあろうとなかろうと、その子がいること自体が素敵だ、あなた自体が素晴らしいんだという、何ができるからじゃなくて、何ができないからダメじゃなくて、あなた自体が素晴らしいんだっていうスタンスでいくっていうのが、ある意味人権同和教育になっていくのだと思う。それよりも「人が困っていたら進んで助けている」の数値が高いのが逆に素敵なことだと思っている。これは自分のなかで何かないと、人のことは気づかないし、人に対して手を差し伸べれないっていう、ここに逆に自信というものが現れるのかと思う。 　今、教育長が言われるとおり、「人が困っていたら進んで助けている」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の項目については、十分な成果が上がっている。
委　員	関連して、グラフの数字では、「自分にはいいところがある」だけが全国から見ても低いというところではあるが、「人が困っていたら進んで助けている」は、その子にとってはいいところがあるということなので、だからそこは矛盾する回答なのだろうと思う。たぶん、今教育長が言われたように、何か自分のいいところを見つけながらも、他の人と比べてではないが、特別なものが何かないと認めていいのかどうかという、子供たちの中での謙遜があるのではないか。実際に人が困っていたら進んで助けているというのは、自分にいいとこがあるということだが、それが具体的な質問でないので、たぶん、子供たちからすると、それをイエスと言えるのか、ノーと言えるのかということになっていると思う。だから、この質問に対する捉え方で全然違ってくるのかなと思う。この質問がいいのか悪いのかわらないが、自分には悪いところもあるけれども、いいところもあるとかであれば、全然また数字は変わってくるのではないか。ただこれだけが質問の項目で出てくると、何気ないことがいいことなのに、特別何か秀でたものをいいものとして解釈してしまうと、なかなか自分ではうんとは言えなのかなと思う。 　たぶん、子供たちはこの数字ほどではなくても、もっと高いものが実際あるけれども、自分でそれをこう自分で自分を褒めれないという感じがあるのかなと、毎回この自尊感情の結果を聞く度に感じている。
教育長	これから学校訪問も始まるので、日常の姿を見るというのも大事になってくるかと思うので、色々と聞いていってみたいと思う。
委　員	不登校の関連での質問になるが、学校の中でフォローができない子供や保護者に対してのその学校教育課の関わり方はどうなのか。自分も職業柄、大川市外の不登校のご家庭に入ることがあって、なかなかその学校教育との連携ができていないところも結構あるので、大川市の現状を聞かせていただければ。
事務局	どうしても学校に足が向かない児童生徒が出た場合には、最初は担任の先生、それから学年の先生たちが連携して家庭訪問し、保護者との連携を図っている。ところが、全く反応が返ってこないとか拒絶されることは実際にある。そのような時に、現在は効果が上がってると思うのは、スクールソーシャルワーカーの存

	在である。もう一つはモッカランドという施設が大川市にはあり、非常に他の市では考えられないような充実した児童福祉施設である。
事務局	モッカランドのような施設は他の市町村にはあまりなく、すぐ動く、細かいところでも動くというところでは、学校にとってはありがたい存在になってるというのは間違いない。ただ、どうしても不登校も単純に子供だけの理由で行けなくなっているところもあるが家庭の事情や、色々な家庭的な不安というところが絡んでいることも大変多いというのも現状であるので、そのような観点からのフォローっていうところでは大変効果が上がってると思う。勿論すぐ解決するものではないが、保護者に寄り添い、そして学校との間をつないでくれるいうことでは大変効果的だと思っている。
事務局	モッカランドは全ての児童と家庭を対象に支援をするということを目的に設立された施設であり、スタッフとして、社会福祉士の資格を持つ「子ども家庭支援員」、また児童相談所ＯＢの「家庭児童相談員」、こちらを数名、配置している。この専門職も、保健師、助産師、保育士等とも連携しながら支援をおこなっている。そのモッカランドと学校教育課が連携して、児童生徒がいる家庭の支援を進めているところである。
事務局	モッカランドに関連して、学校と児童相談所、学校と病院がとても近くなった。そういう効果もある。
教育長	大川市は、重層的、包括的な連携ができているところである。
委　員	３５ページの「イノベーション教育の推進」で、３７ページの目標評価指標「学習の中でＩＣＴ機器を活用することは勉強の役に立つと思う」と回答した割合の設問があるが、ＩＣＴ活用の推進では、良い取り組みを始められると思う。ここ数年、色々な場面で小・中学校でタブレットの授業をされていて、導入した頃は、タブレットに慣れるために、まず扱うというところから始まり、そのフェーズが終わり、現在はどれだけその機器を有効的に授業で使っているかというところになってきていると思う。評価指標の結果としては、大川市が使ってる割合が、全国や県より低いので、まだ先生方が授業に対してその機器を上手に使いこなせていないのか。他の市町の学校で、授業に有効使用してある例があると思うが、大川市内の先生方が他市町に聞いたり、指導主事に相談されたりとかっていうのはあっているのか。
事務局	他の市町に授業で使っているところを見に行くのは、できる限り見に行ってくださいということは言っているが。授業を見に行くことで、授業が自習になったりすることもあることから、先生方の授業のバランスを考えながら、可能な範囲で見に行っている状況である。しかしながら、課題として、委員指摘のとおり、使える先生はどんどん使って、色々な工夫をされているが、使わない先生は使わないという状況が少し生まれつつある。元々、ドリルアプリというのを入れていたが、ドリルアプリ自体をあまり知らない先生方が結構多くいたので、ドリルアプリの活用法を紹介し、色々な子供たちの能力に応じて対応できるアプリであるので、それを使いながらの授業なり、タブレットを持ち帰らして宿題で取り組ま

	せるなどで活用ができればと思っている。
委　員	準備はできているので、有効性というのを先生たちも理解して、便利なものを上手に使いこなせるようになれば、その分子供たちにしっかり還元できるので、それで授業が効率化し、能率が良くなってくると、自然と子供たちの学力などの向上に繋がっていくと感じている。
委　員	以前報告で、福岡県の英語の学力の順位が、都道府県では５番であったが、大川市は少し努力が必要な状態ということ聞いた記憶があるが、聞く力、聞き取る力、話す力、会話をする力というところで小・中学校での、教材、教科書の取り込みはどのように進んでいるのか、あるいは進められるとしての方針をお尋ねしたい。また、先日、埼玉県がすごく進んでいるという話で、子供に英語でインタビューをすると英語で返ってきたりしてるシーンがあったが、会話する力という意味では、何か取り組みで今後期待できるものはあるか。
事務局	いわゆる英語でコミュニケーションを取るということについては、現在もＡＬＴが入っている授業の中でもやっており、また、英語科の先生の中でも、実際に英語で話す時間をできるだけ多くして、子供たちの耳にも入っていくように工夫をされている先生もいる。ただ、それだけではなかなか会話の力が上がらないので、本年度、英語のＡＩアプリを入れるようにしている。これは県の事業と絡んでおり、まずは今年度、中学校２年生を対象として、実際にタブレットの中で英会話のやりとりをしながら話す力を少しずつつけていくというもので、実際にＡＬＴが授業で来た時に、ＡＬＴとも英会話ができるようにするために、そのアプリを入れて訓練をたくさんしていくということで今年度取り組んで行く予定である。
教育長	この県事業は、南筑後地区では大川だけの取り組で、両中学校の２年生に先程の説明の内容を取り入れている。ＡＩであることから、会話をしながらどんどん成長していく部分があったりして、会話が発展していき、それこそ決まったシナリオで話すだけではなくて、お互いリアルな会話になってくのではないかと期待している。また、英語というのは、ある意味水泳と一緒で、いかに数多くプールに入るかと同じで、いかに実際に多く英語を使うかというのが勝負になってくるので、その中の一助になるのではないかと期待しており、来年以降も更に新たな展開を考えていきたいと思っている。
質問・意見等なし	
報告事項	**（１）講師等の任用について**
質問・意見等なし	